農業振興に関する農家の意識調査

集計結果まとまる

回収率は83%，今後の農業経営に高い関心度

昨年市では、農業を経営している人たちが、いったい何を求め、何を希望しているのだろうか…などを知るために、市内全農家の協力を得て「農業振興に関する農家の意識調査」を実施しました。この調査は、今後十年間、当市の農業をさかんにする計画を立てるために行なわれたものですが、その調査内容も、農業後継者の問題からその収入面、さらには農業の近代化あるいは行政施策のための意見、要望などについて広範囲にわたった意見が求められました。

問一　(イ)世帯数は全部で何人ですか　(ロ)そのうち働いている人は何人ですか　(ハ)農業だけに従事している人は何人ですか。

世帯員数は、一農家当たり五・九人で、そのうちの半数三人が働いています。また、この働いている三人のうち、農業だけに従事している人が一・七人あり、残りの一・三人は、農業のほかにも働いていることがわかりました。

地区別にみますと、小合地区は農業だけに従事している人たちが一戸当たり二・一人と多く、金津地区が一・四人と一番低くなっています。

なお、農業、農外をとわず働いている人のうち四四・五%の人が、なんらかのかたちで農外収入を得ており、農業生産性の伸びや悩みなどから今後ともこの比率は、伸びるものと思われます。

問二　あなた（農業経営主）とあなたの後を継いで、農業をやっていく予定の人（十五歳以上）について聞かせてください。

農業経営主の農業専従率をみると六八%で、あとの三二%は、なんらかのかたちで農外就業をしています。年齢別では四十一歳～五十歳までの男女の約半数が「農業だけ」に従事しており、また「農業だけ」に従事している人が、四百二十一人と三七%の低い比率です。

このようなことからみても今後、離農あるいは農地の貸与などの現象が予想され、また、大農を中心とした大規模経営と高能率の農作業機などの出現がみられるものと思われます。（別表(一)参照）

別表(一)

区分			農業だけ	他に従事農業を主にしている	農業に従事他産業を主にしている	仕事をしない他産業のみ従事	計
農業経営主	男	30才以下	20人	26人	8人	3人	1人	58人
		31～40	152	76	39	7	0	274
		41～50	732	129	70	21	2	954
		51～60	274	65	41	20	13	413
		61才以上	201	30	27	5	66	329
		小計	1,379	326	185	56	82	2,028
	女	30才以下	7	4	7	1	0	19
		31～40	41	12	15	2	0	70
		41～50	103	19	14	1	1	138
		51～60	66	7	7	2	4	86
		61才以上	24	1	2	0	3	30
		小計	241	43	45	6	8	343
計			1,620	369	230	62	90	2,371
あとつぎ予定者	男	20才以下	71	56	53	47	57	284
		21～30	162	92	98	71	11	434
		31～40	92	60	44	13	0	209
		41～50	21	8	14	5	0	48
		51才以上	1	0	0	0	0	1
		小計	347	216	209	136	68	976
	女	20才以下	16	6	4	8	16	50
		21～30	26	12	10	8	3	59
		31～40	21	7	6	1	0	35
		41～50	10	2	0	1	0	13
		51才以上	1	0	1	0	0	2
		小計	74	27	21	18	19	159
計			421	243	230	154	87	1,135
合計			2,041	612	460	216	177	3,506

問三　お宅では、ここ一年間の生活はどのような収入によって支えられていますか。

農業収入だけで生活できる農家は、別表(二)でもわかるとおり二六%と少なく、ほかは何らかのかたちで農外収入に依存しています。また、二百五十アール以上の農家は農業だけで生活できるとの集計結果がでましたが、それ以下の耕作農家では農外所得が重要なウエートを占めています。

地区別には、金津、新関地区が農業だけで生活できる農家の割り合いが低く、他の地区が三〇%前後をしめているのにそれぞれ一二%、一七%でした。

別表(二)

項目 / 地区	農業だけ	農業収入を主として	農外収入を主として	農外だけ
市全体	26%	36%	32%	6%
新津地区	28	33	33	6
荻川地区	33	36	27	4
小合地区	34	43	19	4
金津地区	12	28	48	12
新関地区	17	40	37	6

問四　お宅では、この一年間に行なった農業部門は何んですか。そのうち売り上げ金額のもっとも多かったものは、

売り上げ金額のもっとも多かった作目は、全体の九六%を占めお米稲で以下野菜、花卉、球根の順となっています。

また、地区別には、小合地区が売り上げ金額のもっとも多かった作目として、施設園芸、花卉、球根をあげ、園芸、特産色をあらわしています。

問五　将来（今後十年くらいの間）を見通して農業を続けたいと思いますか。

別表四にわかるとおり各地区とも「今後とも農業を続ける」という農家は、金津地区を除く他の地区でいずれも七〇%以上をしめています。

別表(三)

項目 / 地区	続ける	やめる	わからない
市全体	73%	9%	18%
新津地区	70	8	22
荻川地区	77	9	14
小合地区	77	7	16
金津地区	65	12	23
新関地区	75	10	15

将来、経営規模の拡大をはかるとの意欲がうかがわれ、作目も水稲が一番多く、そのほか若干、水稲プラスアルファ部門を拡大する傾向がみられますが、やはり水稲に対する執着が強いようです。

また、やめるという農家も、農地を売り渡すよりも貸し付けるという農家が多く、農地を資産として所有する強い意識がでています。

参考までに問五の補助設問の比率を紹介してみましょう。

農業を続ける（七三%）

▽将来どのようなかたちで農業を続けるつもりですか。

農業だけで……三〇%

農業を中心に……二二%

農業を片手間……三三%

わからない……五%

農業をやめる（九%）

▽農地はどうしますか

売り渡す……二四%

貸し付ける……七六%

▽村を離れますか

離れる……三%

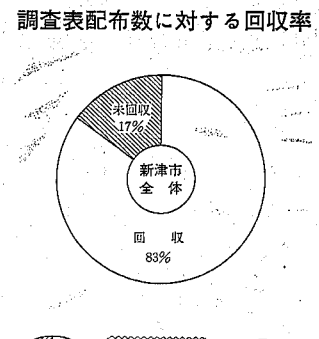
離れない……九七%

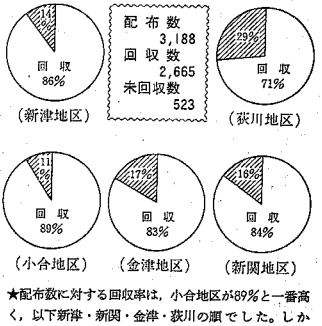
わからない（一八%）

しかし、続けるという農家の中でも、将来は農業専業で続けたいという農家は三分の一で、あとの三分の二の農家は、農業を中心に兼業及び農業を片手間として……という消極的な考えかたです。

しかしながら、農業を続けるという農家および農業を中心にして兼業するという農家においては、

調査表配布数に対する回収率





（新津地区）　（荻川地区）　（小合地区）　（金津地区）　（新関地区）

★配布数に対する回収率は、小合地区が89%と一番高く、以下新津・新関・金津・荻川の順でした。しかも、市全体の回収率では83%と将来の農業に対する高い関心度を示しました。

★回収数に対する回答率は、各地区とも良く、無回答は市全体でわずか67人、比率にして3%と低く、ほとんどの人が回答をしました。

ミノルタSR-T 101
（優れた性能は世界の注目の的です。）
みどり色のコーティングはカラーバランスが最高です。
現金価格
¥17 49,800円
カメラ10ヶ月払い・カメラ月賦チェーン
ミノルタカメラショップ・出張撮影
㈱コダカメラ店
新津市本町二丁目　☎(2)0583

おまちかね
資生堂春の化粧品デー
ステキなプレゼントがいっぱい
＊　＊　＊
卒業生のかたには
ミニドレッサー
がおまちしています

本町2　アリヤ
北越銀行が隣り・第四銀行が向い　TEL②0418

ボリュームある
肉料理専門店
すき焼・とんかつ
箱岩
新津市本町3　TEL (2)4516